

萬世大路

東北中央自動車道
(福島～米沢北) 通信

第9号 平成22年12月 発行



⑬ 片子地区道路改良工事

請負者: (株) 殖産工務所

工期: H22年7月～H22年12月

米沢市万世町金谷付近を盛土する
工事で、12月に完成しました。
(幅19m×高さ8m×300m区間)



☆完成状況☆

路体という部分の工事です。
この区間は、栗子トンネルの
掘削工事で出た土を盛土した
ので、色が灰色をしています。
土の量は 54,000 m³ で、
(10t)トラック 18,000 台分
です! (*_*)



🔍 参照

【盛土】

舗装(ほそう)
路床(ろしょう)

ろたい
路体



← 栗子トンネル工事
から発生した土を運
びます。
道路を汚さないよう
に、【スパッツ】とい
う機械を使って、タイ
ヤの汚れを落として
から公道に出ます。



【スパッツ】

雨の日の翌日などは
いつも以上に気を付けて
運搬作業を行います!



↑ 現場に運んできた土を、ブルドーザーや振動ローラを使っ
て締め固め、法面をバックホウで整形します。一般的に盛土
工事(路体部分)では、この作業を高さ30cmずつ行います。

片子地区道路改良工事の
盛土の高さは8mなので、
27回繰り返しました!

遺跡発掘調査

いせきはくつちょうさ

東北中央道の建設事業に伴い、今年度《福島～米沢北 IC 間》では、馳上遺跡・西谷地b遺跡の2箇所遺跡の発掘調査が行われました。

☆馳上遺跡

馳上遺跡は米沢市役所の東方約1 kmに位置し、古墳時代と奈良・平安時代の集落跡と推測される遺跡です。

今回の調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡や土器が出土しました。また、河川沿いに検出された大型の建物跡は当時の倉庫と思われ、船運を利用した物資の集積場所であった可能性が想定されるそうです。

元立橋下部工工事現場 (H22年11月工事完了)



☆西谷地b遺跡

馳上遺跡に隣接する西谷地b遺跡は、奈良・平安時代、中世に営まれた集落遺跡です。

今回、伊達氏が支配する地域から出土することが多い【内耳土鍋】などが見つかりました。また、奈良・平安時代では、竪穴住居跡を中心とする集落が存在した時期と、倉庫跡などを中心とした役所に関連したものがあつた時期があつたようです。

今回の調査で出土した一部です。数百年経っても、形が残ったままで見つかるなんてすごいね！



調査の様子



竪穴住居跡



中世の木製品 (下駄、漆碗)



河川跡から出土した壺



今回出土された伊達家の家紋入り椀です。山形県埋蔵文化財センターの方いわく、これは16世紀前半頃のもので、伊達政宗の祖父、曾祖父あたりになるそうです。米沢の本遺跡周辺で出土されていて、このあたりを支配していたことがわかるようです。

【伊達家の家紋】



竹に雀紋



三引両紋



ご意見・お問い合わせ先
国土交通省 東北地方整備局
山形河川国道事務所 米沢監督官詰所

〒992-0011 山形県米沢市中田町 260-2
TEL: 0238-37-5570 FAX: 0238-37-5575

